



やっぱり、家族っていいね。

家族の日 家族の週間

応募期間

平成30年7月1日(日)～9月7日(金)

※郵送の場合は、当日の消印有効

応募点数

「写真」「手紙・メール」それぞれ一人1点まで

表彰

最優秀作品は、平成30年11月18日(日)開催予定の「家族の日」フォーラム(宮崎県宮崎市)において表彰する予定です。

その他

- 審査の結果は、入賞者のみ本人あてに通知します。
- 応募作品の一切の権利は、内閣府に譲渡されます。
- 応募作品は一切返却しません。
- 応募は未発表かつオリジナルの作品に限ります。
- 応募者の個人情報の取扱いについては、「家族の日」「家族の週間」の展開に必要な範囲で利用します。応募者の同意を得ずに、利用目的を超えて利用したり、第三者に開示することはありません。
- 電子メールによる応募の際、添付ファイルがウイルスに感染していると作品が事務局に届きませんので、予めご了承ください。
- 入賞者の作品に明記した情報は、「家族の日」「家族の週間」等を展開する中で、必要に応じ、利用、提供します。また、入賞作品は、内閣府ホームページ、「家族の日」フォーラム等で展開します。
- 入賞作品は作品集にまとめ、入賞者及び関係者各位に配布します。また内閣府ホームページ「家族の日・家族の週間」に掲載します。

【審査基準】

- テーマ性(写真、手紙・メール部門共通)
 - 募集テーマ「家族や地域の大切さ」に則している
 - 明るい夢や希望が感じられる
 - 作者独自の家族観・地域観がうかがえる
- 表現力(写真、手紙・メール部門共通)
 - テーマを十分に表現し伝えている
 - 見る人、読む人を引き付ける魅力を備えている
 - 作品としてのクオリティ
 - 作品のオリジナリティが伝わってくる
- 総合力

(写真部門)
写真とタイトル及びエピソードの調和がとれている

(手紙・メール部門)

 - 文章がわかりやすく、読み手が理解できる
 - 構成にまとまりがある
 - 意味を十分に理解している

応募先

応募要領については中面をご確認ください。

【郵送の場合】

〒108-0023 港区芝浦3-8-10 MA芝浦ビル4F
株式会社JACOM内
「家族や地域の大切さに関する作品コンクール事務局」

【電子メールの場合】

kazokunohi30@jacom-inc.com

【PCサイトの場合】

<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/family/index.html>
〔「家族の日 家族の週間」で検索〕

【スマホ・携帯の場合】

右のQRコード、あるいは
<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/family/index.html>〔「家族の日 家族の週間」で検索〕



平成29年度「家族と地域の大切さに関する作品コンクール」より



◀ 応募作品の審査の様子
(写真部門)



▲ 松山少子化担当大臣による表彰後の記念撮影

平成30年度

家族や地域の大切さに関する作品コンクール

写真&手紙・メール部門

作品募集中

【応募期間】

7/1(日)

9/7(金)



やっぱり、家族っていいね。



【11月の第3日曜日】

11月18日(日)は「家族の日」

【家族の日の前後各1週間】

11月11日(日)～24日(土)は「家族の週間」

主催

内閣府

お問合せ

家族や地域の大切さに関する作品コンクール事務局

☎ 03-3451-6112 (平日10時～17時)

電子メール: kazokunohi30@jacom-inc.com



やっぱり、家族っていいね。家族や地域で支える子育て

写真部門

テーマ
1

子育て家族の力 (子育て家族の絆、子供と深める家族の絆)

例 家族の団らん、パパの育児、3世代同居家族の様子、親子で一緒に楽しみながら何かに取り組んでいる日常の様子 (食事作り、動植物の世話、楽器・スポーツの練習、語らいなど)、出産を控える家族で準備している様子等、子育て家族の絆やあたたかさ、ほほえましさを表しているもの



審査員
カメラマン
渡部陽一氏 ほか

テーマ
2

子育てを応援する地域之力 (地域ぐるみやボランティアで子育て支援)

例 地域と子供達とのふれあいの様子、地域での子育てイベント(お祭り、親子教室、子育てひろば、子供と他世代との交流、地域の見守り活動など)、ワーク・ライフ・バランスの取組 (定時退社し子育てイベントへの参加など)、子育てサークルの様子等、地域や社会で子育てを応援しているという姿を表しているもの

応募資格

小学生以上の者 (プロカメラマンは除く)

応募要領

作品には、以下の事項を明記の上、郵送、電子メール、またはPC・スマホサイト(内閣府ホームページ)にてご応募ください。

- ①応募テーマ、②作品タイトル、③簡単な解説 (エピソード) (100字程度)、④郵便番号、住所、電話番号、⑤氏名 (ふりがな)、⑥性別、⑦児童・生徒は学校名・学年、一般は年齢・職業

※2人以上を撮影した写真でご応募ください。
※応募は一人1点で、デジタルカメラ、フィルムカメラまたはスマホカメラ、携帯カメラで撮影した、カラーまたは白黒プリント、もしくはデータでの応募とします。スマホや携帯電話での画像添付による電子メールでの応募も可能です。(3年以内に撮影した写真に限ります。)

賞

募集テーマごとに、最優秀賞1点、優秀賞5点以内。表彰状と副賞。いずれも内閣府特命担当大臣 (少子化対策) 表彰。

家族や地域の結びつきの大切さが改めて見直されている今だからこそ、子育て家族の絆と、それを支える地域での子育て支援の大切さを見つめてみませんか。あなたのあたたかい気持ちを作品にして、ご応募ください。

手紙・メール部門

テーマ

子育てを家族で支え合うことの大切さ、家族への感謝などの思いを伝える内容のもの、または、子育てを地域や社会が見守り応援する様子やその大切さを訴える内容のもの

例

子供から親・祖父母へ、兄姉から弟妹へ、夫から妻へ、妻から夫へ、親から子供へ、子育てを応援している社長・上司・同僚から子育て社員へ、子育てを応援する地域の方から子育て中の人へ など

応募区分

1.小学生の部 2.中学生・高校生の部 3.一般の部

応募要領

作品は、200~400文字程度で、以下の事項を明記の上、郵送、電子メール、またはPC・スマホサイト (内閣府ホームページ) にてご応募ください。

- ①応募区分、②作品タイトル、③郵便番号、住所、電話番号、④氏名 (ふりがな)、⑤性別、⑥児童・生徒は学校名・学年、一般は年齢・職業

※スマホや携帯電話による電子メールでの応募も可能です。
※原稿用紙による応募も可能です。

賞

応募区分ごとに、最優秀賞1点、優秀賞5点以内。表彰状と副賞。いずれも内閣府特命担当大臣 (少子化対策) 表彰。



「家族の日」「家族の週間」について

内閣府では、子どもと子育てを応援する社会の実現に向けて、子育て家族やその家族を支える地域の大切さについて理解を深めてもらうために、平成19年度から11月第3日曜日を「家族の日」、その前後各1週間を「家族の週間」と定め、この期間を中心として理解促進を図っています。

平成29年度 最優秀賞作品 写真、手紙・メール両部門ともに、その他の入賞作品は内閣府ホームページ「家族の日・家族の週間」をご覧ください。http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/family/index.html

テーマ
1

「お誕生日おめでとう」



姪っ子の3歳の誕生日を家族みんなでお祝いした時の写真です。撮られるのがあまり好きじゃない彼女がうっとり微笑んで幸せそう。それぞれ忙しい毎日だけど、こうやってみんなで集まると楽しくてまた頑張れます。このフレームに、溢れんばかりの笑顔をもっともっと増やしていけたらいいな。

作品のエピソード

テーマ
2

「子ども素隠居参上！」



倉敷美観地区の春祭り。児童クラブの子どもたちが、地域の人達と作った「じ」「ば」の面を被り素隠居となって、まちに飛び出します。うちわで頭を叩かれると健康になると伝えられます。さあ、福を授けに行くぞ!

作品のエピソード

小学生の部

「仲よし三兄弟」

秋田県 小学5年生 男子

ぼくには、弟が二人います。小学二年生の玄玄とは、野球をしたりゲームをしたりします。四才のひょう吾は、ぼくの遊びをまねします。遊びだけでなく、ぼくが悪い言葉を使うと、その言葉もまねします。床にね転がってテレビを見ていると、それもまねします。だから、ひょう吾がおこられていると、ぼくがおこられている気がします。ケンカもするけど一緒にいることがあたり前の弟達です。

ぼくのお父さんも三兄弟です。お盆におじさんたちと会うと、お父さんもおじさん達と一緒に話をして笑ったり冗談を言ったりして、楽しそうにしています。いつもはちがう家にいるけど、お父さんとおじさん達も、ぼくたち三兄弟と同じくらい、仲よし三兄弟なんだなと思いました。

大きくなってぼくは弟たちと三兄弟でいたいです。

中・高校生の部

「ボクの家族」

沖縄県 高校3年生 男子

水曜日の夜、僕は家族みんなが使った皿を洗う。ペタペタするし、少しにおう。僕は好きな音楽なしでは皿洗いを続けられない。そんな皿洗いを母さんは週6やる。

土曜日の朝、僕は家族の服を干す。夏はとても暑いし、冬は手が死にそうになる。僕は好きなラジオなしでは洗濯干しを続けられない。そんな洗濯干しを母さんは週6でやる。

部活の送迎の時、父さんは好きなイギリスのバンドの曲を流す。まだまだ、勉強不足で歌詞の意味は分からないが僕はその曲が好きだ。その曲なしでは毎週水曜日の皿洗いは乗り超えられない。

六つ上の兄はラジオを聴いていた。なんかカッコつけてるなと思っていた。今では、毎週土曜日の洗濯干しの時、兄が教えてくれたラジオなしでは乗り超えられない。

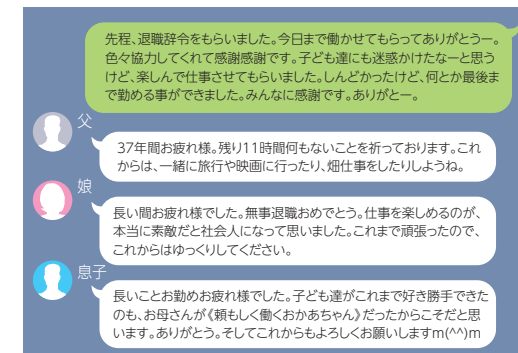
そんなにゆるくはない僕の日々、家族なしではつまらない。僕は家族にどんな影響をあたえられるのだろう。

一般の部

「家族からのあたたかい退職プレゼント」

京都府 61歳 女性

37年間の教職生活が終わった。校長として気を張り詰めた6年間も無事終了。家族の支えがあってこそ、最後まで全うできた。辞令交付帰りの電車の中で、家族へLINEを送ったら、次々と返信が届いた。



何物にも替えられない心温まる家族からの退職プレゼント。さあ、これから、どんな恩返しをしようかな…?